

第 15 回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

緩和ケアセンター事務局

平成 30 年 6 月 20 日（水）に、第 15 回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部附属病院新中央診療棟 1 階多目的室 1 で開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、院内外の医師、看護師、MSW、臨床心理士など参加され合計 32 名の参加者となりました。

当院の腫瘍センター吉野茂文副センター長より開会の挨拶があり、当院の緩和ケアセンター山縣裕史医師を司会として、各施設より事例提示があった後、グループ形式で討議を行いました。

事例：「地域の緩和ケア病棟と在宅医の連携により希望する自宅での看取りが実現した舌がん事例」

山口大学医学部附属病院 歯科口腔外科 堀永大樹先生
山口大学医学部附属病院 看護部 今中麻友美先生
下関市立市民病院 緩和ケア内科 牧野一郎先生

グループ討議では、様々な視点から活発に意見が出され、参加者の方々からは、「事例の振り返りにより退院後の患者さんの様子や、どのように対応されていたかが分かり、とてもよい学びとなった。今後の看護に活かしていきたいと思います。」、「口腔外科では受け入れ先の選択に苦慮することが多いが、診療科の枠を超えて調整できる架け橋ができた気がします。今後のよりよい連携ができればと思います。」などの意見が寄せられ、有意義な検討会となり無事終了することができました。

この度は、様々な職種の方々に検討会に御参加して頂き、誠にありがとうございます。本検討会は、今後も継続して行う予定ですので皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。

《検討会風景》



